

女川町復興まちづくり住民説明会（総体柔道場） 議事録

日 時：平成24年2月4日（土） 19：00～21：00

場 所：総体柔道場

対象者：町内全地区

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 先行復興地区への入居の優先順位はあるのか。
A. 意向調査をしっかりとって、本当にどれくらい必要なのかということ把握する。そのうえで、やりかたを決定していきたい。抽選もたぶん出てくる。
- Q. 町中心部の復興住宅の計画戸数はどれくらいか。
A. 1800世帯を想定している。そのうち災害公営住宅は500戸。
- Q. 駅の見通しはどうなっているのか。
A. 浦宿駅までは駅の場所は未確定だが、概ねこれから2年間でやりたいというのがJRの意向。
- Q. 低地部の避難経路や避難計画はどうなっているか。
A. 何があってもすぐ上のほうに上がれる体制を作っていく。
メイン道路は23,4メートルの幅。ほかのところも避難道路と位置付けて、幹線については10メートル以上。各地区への道路については12メートルとかの幅広さを取っていきたい。
- Q. 盛土するエリアは地震に対して大丈夫なのか。
A. 宮城県沖地震以降、耐震基準も改定されている。施工実績、専門的知見に基づいて業者を選定する。
- Q. 清水にある瓦礫の処分時期はいつになるのか。
A. これから2年半でやっていきたい。
- Q. 女川港は、被災前と同じということによいのか。
A. 県との協議がどこまでできるかということがある。
港湾としてより使いやすい形はどうなのか。トラックの関係などもこれから整備していかなければならない。余った土が出るとするならば使えるかどうかなど検討していきたい。
- Q. できるだけ、A'エリアでも、浸水しない高さにするようにしてもらいたい。
A. 標高とかの関係があって、取り付け道路をつけられるかという心配もあるし、地権者の関係もある。
地区でまとまった要望に対しては対応させてもらおうし、協議の場にも積極的に応じていきたい。
- Q. 多目的エリアの使い方は、どう考えているのか。いつ頃までに整備するのか。
A. まちづくり協議会で議論している、意見としてはいつでも待っている。若い世代の人の意見もしっかりいただきたい。

- Q. 復興が遅れたのは政権がしっかりしていないという点にある。できるだけ早く事業を進めてもらいたい
- A. 女川に残りたくなるようにどうしていくかというところに目標を置いておくことを意識している。被災した女川町民の皆さんの再建をどうしたら早くできるのかそれをなすのが、行政としての一番の使命だと理解している。そういう基本的考え方に立って、どうしたら多くの方が女川で将来的にも暮らしていただけるか。そのことを追い求めつつスピード感を持ってやっていく。

以 上